



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第61号



童門冬二先生による開講基調講演
2010/6/26
日本の心
説家
新渡戸稲造を中心



2010/6/26
新渡戸塾 子ども講座 寺子屋稲生塾① 開講式



2010/7/3
寺子屋稲生塾② 大行灯まつり

人づくり・地域づくり 新渡戸塾・寺子屋稲生塾 ～地域のプライドは、先人の開拓・武士道精神のなかに～

新渡戸塾 塾長・十和田市立新渡戸記念館 館長代理 新渡戸常憲

開拓精神と武士道精神はつきつめて考えれば、生きること、生きる力だと思います。生きる力を育むためには、自らと向き合って現実に対峙し、自分自身の懐を深く掘り下げていくしかないのです。

6月から始まった新渡戸塾・寺子屋稲生塾では、個々の力量を育み地域アイデンティティを築くことを使命としています。多くの方々に参画いただき、回を重ねるごとに幾重にも学び合い充実した内容となって参りました。最近行われた企画では、中心市街地として活性化への取り組みが様々な形で進む稲生町を取り上げました。稲生町が歩んできた歴史を辿っていくと、150年経ち目に映る景観が変化してもここにしかない町の精神は今も生きて伝わっているのだと改めて感じます。それは先人たちが“時代”を生き抜いてきた結果なのです。稲生町は十和田の中心という以上に稲生川の恵みで発展してきた町の始まりの証です。規格量産化、大量生産の時代を終えた今、農業・商業・工業、また観光においてもその地の歴史風土に沿った素材、土台となるものを捉え、磨くことが地域の強みとなるのではないのでしょうか。生きることの根本がどこにあるのか、自らの立脚点と進むべき方向を確認していくこと、これは自己の利益やエゴを越えたものでなければ地域力を向上させることはできません。地域づくりと地域活性化の方向性を定める「志」は、広く、深く、長い視点から検討すべきものであり、地域博物館として私たちも皆さんと共通の「志」の追求を目指したいと思っています。



2010/8/1
寺子屋稲生塾③ 木霊の森のお話し会



2010/8/7・8
寺子屋稲生塾④ とわだ時空国語教室



開講中



2010/9/4
第一講座 絆キャラリートーク② 稲生町思い出産談会



2010/7/24
第一講座 絆キャラリートーク① 芸能と人づくり



2010/7/10
新渡戸塾 第一講座 講演会

第二講座「武士道」に学ぶ日本の心 【講演会】 参加無料

- 講師：十和田市立新渡戸記念館 館長 新渡戸 明
- 演題：「新渡戸稲造の武士道」
- 日時：平成22年10月16日(土) 14:00～15:00
- 会場：十和田市立新渡戸記念館 (定員およそ50名)

寺子屋稲生塾 その5 茶道体験—お茶の心は武士道の心— 【閉講式】

- 日時：平成22年12月18日(土) 9:00～12:00
- 会場：十和田市民文化センター 参加無料 (定員およそ30名)
- [共催：十和田市立新渡戸記念館・十和田市教育委員会]

新渡戸塾 連携展 新渡戸稲造のまなざしシリーズ企画展

BUSHIDO

武士道展

日本の心

- 会期：平成22年10月15日(金)～12月28日(火)
- 会場：十和田市立新渡戸記念館 一階展示室

[お問い合わせ：十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX 0176-23-4430]

1900年新渡戸稲造が英語で著し、アメリカで出版された「BUSHIDO—The Soul of Japan—」110年の時を越えて、本書を現代社会を生きる私たち日本人に必要な生き方の指針として見直す企画展です。



—高校長時代

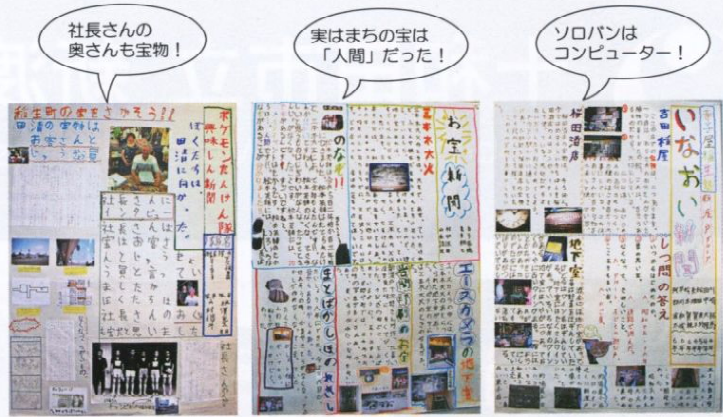
EVENT

平成22年度 新渡戸塾こども講座



寺子屋 稲生塾

わたしたちの先人は「ふるさとを愛する心」「武士道の心」「開拓の心」をもって、どんなに苦しい時も己に克ち、大きな目標にむかって歩み続けました。これからの時代を生きる子供たちに、ふるさとの絆の中でその3つの心を養い、自らの人生を強く生きて欲しいとの願いから新渡戸塾のこども講座を、十和田市教育委員会と共催で「寺子屋・稲生塾」として6月から8月までに4つのプログラムを実施しました。



プログラム4「とわだ時空調査隊・まちの宝を探そう!」では素晴らしい壁新聞を完成させました

★寺子屋稲生塾生の壁新聞に 東奥日報 十和田支局長・清藤 敬さん から講評いただきました★ テ-リー東北 十和田総局長・工藤文一さん

「興味しん新聞」

東奥日報 歴史ある衣料品店の社長さんへのインタビューで「お客さんと従業員が店の宝」であることが分かったほか、社長さん個人にとって切手コレクションと卓球の世界チャンピオンと一緒に写した写真も宝であることまで突き止めました。踏み込んだ取材が読者の興味を引く記事につながっています。

テ-リー東北 印象的な大小の見出しや地図、四コママンガ、縦書きと横書きの使い分けなど、ビジュアルな紙面を目指そうという努力が紙面にあふれています。トップ記事にある田清の社長夫妻の笑顔が印象的です。「おくさんも宝」との一文も出色。心憎いばかりの配慮が効いています。

【活動全体への講評】

テ-リー東北 三紙とも授業だけでは触れる機会の少ない地元の歴史に接した感動が、瑞々しい筆致で表現されています。題材は同じでも視点はまさに三者三様。切り口の違う紙面に仕上がりました。参加した子供たちには今後も、個性を大切に成長して欲しいと思います。

「お宝新聞」

テ-リー東北 記事の文中や末尾にさりげなく感想を盛り込むなど、書き手が伸び伸びと個性を発揮しています。感動を率直に表現する姿勢に好感が持てます。紙面を大まかにブロック分けするレイアウトでバラエティ豊かな文体の記事と全体の見た目の統一感を両立させました。

東奥日報 三本木大火をテーマにさまざまな種類の店を取材し、カメラ店や茶舗に地下室があることを紹介、大火が店の造りに影響を与えたことがわかります。古い菓子店の「木型」なども興味深い。見出しや記事のポイントとなる部分の文字の色を変えるなどして、編集にも工夫を凝らしています。

「いなおい新聞」

東奥日報 どこを取材したのか見出しではっきりさせており、全体として見やすいつくりになっています。種屋の種の箱、酒屋のそろばん、古い時計、地下室など、店の歴史を象徴するものに着目し、分かりやすく記事を書いています。取材した時の様子や雰囲気伝わってくる写真も楽しい新聞です。

テ-リー東北 ていねいに取材し、事実関係をしっかりと書き残そうという熱意が伝わってきます。古い物を大切にする老舗への尊敬の念が行間からにじみ出ています。紙面では小さめの写真をバランスよく配置しており文字が多すぎて見づらくなることを避ける工夫が感じられました。

東奥日報 子供たちが取材した事実は、町の人でも意外と知らないのではないのでしょうか。お父さんやお母さんにもぜひ教えてあげてください。この活動で得た感動を忘れずに、これからもまちの歴史に興味を持って、宝を探す活動を続けて欲しいです。

制作した壁新聞は10月1日(金)~31日(日)青森銀行十和田支店内で展示します

1 七夕たんざくに志を書こう! 6月26日(土) 12:40~16:00 [場所:十和田市総合体育センター]

開講式では十和田市長、教育長、当館館長が「開拓精神」「武士道精神」「ふるさとを愛する心」の大切さを子どもたちに語りました。参加者およそ30名は、新渡戸傳の紙芝居を見た後、夢や目標を七夕短冊に書き、7月3日太素塚に飾りました。



2 150年前の大行灯をつくろう! 7月3日(土) 18:00~21:00 [場所:太素塚~産馬通り]

寺子屋稲生塾生と「工作屋台村」(講師:吉田紀美男先生)の子どもたちが制作した行灯や、新渡戸稲造や、武士道の言葉が描かれた大行灯、ペットボトルキャンドルなど合計400個を太素塚と産馬通りに並べ点灯しました。トリオ・ザ・マミーズ(小原まゆみさん、竹内寿子さん、山本貴子さん)の演奏もあり、参加者120人が楽しみました。



3 太素の森のお話し会 8月1日(日) 9:00~12:00 [場所:太素塚]

ボランティアの語り部(三浦直子さん・中村陵子さん)の開拓民話紙芝居で、歴史を楽しく学ぶほか昔のおやつと遊びの体験(講師:澤口駿三夫さん・石川原光雄さん)を行い、過去と現在、そして地域とのつながりを感じてもらいました。

4 とわだ時空調査隊-まちの宝をさがそう!- 8月7日(土) 9:00~16:00 8日(日) 9:00~12:00

8月7日記念館で稲生町の歴史レクチャーを受けた後、塾生たちは市民ボランティアと稲生町でまちの宝についてインタビューしました。8日子どもたちは壁新聞にまとめ、館内に展示しました。協力店舗(的場菓子舗様/松本茶舗様/岩間印刷様/エースカメラ様/桜田酒店様/田清第一店舗様)の方は、お忙しい中まちの歴史や宝を丁寧に教えてくださいました。



博物館実習生レポート 10日間の実習を終えて

平成22年度第I期博物館実習生 [期間:平成22年9月7日(火)~9月21日(火)]
北里大学獣医学部動物資源科学科4年生 野地 香衣

実習を通し様々な博物館業務について教えて頂きました。特に最も興味があった教育普及は、小学生の団体見学や、南小学校での出前講座もあり深く学ばせて頂きました。博物館は私にとってあまり身近ではなく、眠たくなってしまおうというイメージがありました。しかし、記念館で小学生たちが皆すごく楽しそうに見学し、満足げに帰っていく様子を見てとても驚きました。子供から大人まで、より多くのことを楽しんで学んでもらう為には、ただ資料を展示するだけでなく、来館者の立場から見た様々な工夫が大切だと感じました。期間中地域の方々から様々なお話を聞かせて頂き、博物館と地域の交流の大切さも肌で感じる事が出来ました。実習で学んだことを学業のみならず今後の生活にも活かしたいと思っています。記念館の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。



野地さんには南小学校での出前講座のプログラムと一緒に考えてもらいました

平成22年度 新渡戸塾 協力：博物館によるまちづくり団体 Kyosokyodo

平成22年度 十和田市民大学講座

開講基調講演 (十和田市民大学講座 共催) 歴史作家・童門冬二先生『歴史に見る日本の心—新渡戸稲造を中心に—』

■日時：6月26日(土) 13:30~15:30 ■場所：十和田市民文化センター視聴覚ホール

「新渡戸塾」開講基調講演を市教育委員会との共催で市民大学第一講座として開催しました。講師に歴史小説家・童門冬二先生を迎え、新渡戸稲造の国際活動から考える十和田市民の地域活動の意義について語っていただき、参加者およそ300人は楽しくも、人間の生き方の本質を鋭くつづお話に、引き込まれるように聞き入っていました。



童門先生のことば ①

まちづくりの原則『グローカリズム』

童門先生の基調講演から、私たちのまちづくりに大切な知恵を数回にわけてキーワードでご紹介します

「恒産をつくる」というまちづくりの原則として「1. 平和に 2. 豊かに 3. 平等に 4. 正しく 5. 生涯学習 6. 交流と発表」の6つを童門先生は挙げられました。これは新渡戸稲造の生涯の目標でもあり、更に稲造は『グローカリズム』という考え方を体現していたと童門先生は語られました。『グローカリズム』は一村一品運動を行った大分県平松知事が提唱したもので「1. ローカルな 2. ナショナルな 3. グローバルな問題意識を持つ」ということ。例えば、十和田市民であれば、市民として十和田市のこと、県民として青森県のこと、国民として日本国のことを主体的に考えることを指します。そのために「1. 先をみる力を養うこと(先見力) 2. 情報の収集に熱心であること(情報力) 3. 分析して判断すること(判断力) 4. 判断して決断すること(決断力) 5. 決めたことは必ず実行していくこと(実行力) 6. そのために健康であること(体力)」の6つの要件を挙げられ、新渡戸稲造はこれらを全部兼ね備え、グローカリズムを既に実現していたのだと童門先生は語られました。地域の先人である新渡戸稲造のこうしたあり方から学び、未来につながる私たちのまちづくりに活かしていきましょう。

第一講座 三本木原開拓に学ぶ先人の心

講演のようす

★講演会「稲生町の歴史・まちづくりの視点から—祭礼と芸能にみる稲生町のまちづくり—」
講師：青森県史編さんグループ主幹 中野渡一耕氏

■日時：7月17日(土) 18:30~20:00 ■場所：十和田市立新渡戸記念館

「新渡戸塾」第一講座講演会は青森県出前トークとして、十和田市出身の県史編さんグループ主幹・中野渡一耕さんにお話しいただきました。活性化が叫ばれる中心市街地・稲生町について、その原点「三本木原開拓」で行われたまちづくりの諸施策から、稲生町に移住した人びとを慰撫するための振興策(諸芸能・祭礼など)を史料をひも解いて解説いただきました。また、2008年まで行われていた稲生大権現を装束一式とともに会場に展示し、そのお囃子を晴山権現・佐々木秀美さん(太鼓)、米田尊慈さん(笛)に実演いただきました。およそ50人の参加者は、史料から分かる当時の祭りの詳しい様子に興味深く聞き入っていました。



稲生大権現お囃子の実演

★「絆」ギャラリートーク・賑わいの意味を考える 全2回 18:30~20:00 場所：十和田市立新渡戸記念館

異なる分野で活躍する市民を講師に行うギャラリートークです。今回は活性化が叫ばれる中心市街地・稲生町の「にぎわい」の意味と地域の未来を、人づくり、地域づくりの観点から考えました。

1 7月24日(土) 第1回 芸能と人づくり—永遠の歌姫・菅原都々子の人生—
講師：劇作家・演出家 越後屋徳兵衛氏(十和田市観光推進課長 岡山新一氏)

講師の越後屋徳兵衛氏制作の菅原都々子の人生ラジオドラマ「遠回りして帰ろう」脚本の中から、音楽活動で郷土を盛りたてた当地出身の作曲家・陸奥明と、娘である永遠の歌姫・菅原都々子のエピソードを中心に、平坦ではなかった芸能生活の中で菅原都々子さんをおさえ、育てたふるさと十和田の存在、家族をはじめとする人との絆などについてお話しいただきました。およそ30人の参加者は、知られざるエピソードで、家族愛、ふるさとへの思いが「月がとっても青いから」などの名曲を誕生させたこと、歌の力で人々の心のふるさととなった都々子さんの人間としての素晴らしさを知り「菅原都々子についてもっと知りたくなった」「ふるさとへの大切さを改めて実感した」などの声が聞かれました。



楽しいトークとなりました

2 9月4日(土) 第2回 稲生町思い出座談会 講師：稲生町に今、もしくは以前お住まいの方
三浦芳靖さん/平野郁太郎さん/杉本佳築子さん/桜田恒郎さん/桜田卓也さん/今泉礼三さん/吉田和雄さん

稲生町の各町内の代表として7名のパネリストの方にお越しいただき、稲生町の150年の歴史から①三本木大火(昭和16年)と②秋まつりを事例にあげ、それほど遠くない昔、私たちの先祖が体験した楽しみや賑わいと悲劇について語っていただきました。ご自身が体験したことを自分なりに見つけ、解釈して人にお話しいただくことで、地域住民それぞれの中にある「ふるさとへの思い」を共有し、稲生町アイデンティティをつくるきっかけになればと思いました。参加したおよそ20名の方からは「知らなかったことも耳にでき、感動でした。稲生町はいつまでも消したくない」「アイデンティティを再確認できた」「今後についても語っていただき良かった」「地名や街並みなど古き時代も残すべきと感じた」など好評の声と高い関心が伺われ、今後も座談会を継続したいと感じました。



講師：左から今泉礼三さん 杉本佳築子さん

講師：左から三浦芳靖さん/桜田恒郎さん 桜田卓也さん/吉田和雄さん/平野郁太郎さん

地域の伝統・十和田市秋まつり太素塚御神輿御渡

トピックス

十和田市秋まつり最終日9月12日(日)三本木稲荷神社の御神輿が例年通り太素塚を訪れました。この御神輿は慶応元年(1865)新渡戸三代が稲荷神社に奉納したもので、太素塚へのお渡りは古くからの風習であり、元町の方のみで担ぐことになっています。しかし、担ぎ手の減少と高齢化から肩に担いで移動が難しくなっており、次世代に受け継ぐことの大切さを感じます。また、初日9月10日(金)稲生町中央町内会・わ組が太素塚で御神輿出陣式を行い、十和田祭唄(地固め唄)を太素塚に奉納して安全を祈願しました。平成8年から始まった太素塚での出陣式も14年目を数え、今後も古くからの伝統に新たな創意を加え、活気ある秋まつりが続くことを願ってやみません。



中央町内会・わ組の 十和田祭唄奉納



太素塚に到着した 三本木稲荷神社御神輿

mini NEWS

資料の寄贈

- ・土岐理さん(青森市)半鐘、ワラグツ、ツマゴ、シベ 各1点
- ・塚本正さん(おいらせ町)三本木開墾株式会社解散記念茶托1点

太素塚清掃奉仕

- ・6月6日(日) 7月4日(日) 8月1日(日) 9月5日(日) さわかクラブ様
 - ・5月6日(木) 9月19日(日) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様
- ありがとうございました

関連情報

▶稲生川灯ろう流し開催

「稲生川灯ろう流し」を今年も太素顕彰会、十和田商工会議所、十和田市観光協会の共催で行いました。太素塚から18:30稲生川にむけ灯ろう行列が出発、稲生町を抜けて会場の稲生川第一西裏橋まで歩きました。天候に恵まれ、およそ3000人の参加者が見守る中、19:00頃から300個の灯ろうが流され、今年も稲生川を管理する水土里ネット稲生川(稲生川土地改良区)の全面的な協力で、灯ろうは稲生川をゆるやかに流れて行きました。



▶歌手・三上寛さんが来館

青森県出身の歌手・三上寛さんほか5人のアーティストたちが出演し、十和田市の開拓の歴史を心に刻みながら音楽を通じて未来につなげるイベント「世界一小さなロックフェスティバル開拓魂02」が産馬通り「お祭り広場30番」で行われました。三上さんはライブ前記念館に来館し、開拓の歴史を学んでいました。

▶「こども武士道」の本を当館で推薦

新渡戸稲造の武士道の精神を分かりやすく、現代の子供たち向けに解説した『こども武士道—大切な教えの巻—』(文・高橋和の助/絵・大垣友紀恵)が講談社より発刊されました。武士道の各徳目を、キャラクターが活躍するお話しやマンガなどで楽しく紹介しており、現代の子供や、その親たちの武士道の手引書として当館でも推薦しています。



▶十和田商工会議所青年部主催、第1回十和田バラ焼きスタンプリナー [期間: 2010年8月10日(火)~2011年1月31日(月)]で当館は投票&ピンバッジ配付場所となっています。

活動報告

▶9月27日の命日に先だち9月24日(金)太素塚において新渡戸傳翁没後139年命日祭を開催しました。

▶博物館関係会議出席

6月25日(金)平成22年度青森県博物館協会理事会・総会(青森県立郷土館)に館長代理が、7月7日(水)青森県立郷土館協議会(青森市)に館長が出席しました。

▶記念艦「三笠」の特別展「日露戦争に見る武士道」[期間: 2010年10月24日(日)~2011年3月21日(月)]へ新渡戸稲造直筆の書など7点を貸し出しました。

水土里ネット稲生川 協力

今年もやります! 稲生川穴堰ツアー

昨年の鞍出山穴堰(トンネル)に続き、天狗山穴堰の見学を予定

- 日 時: 11月5日(金) 8:30太素塚集合 (9:00太素塚出発 12:00太素塚解散) ■定 員: 20名(対象・一般)
- 参加費: 実費300円 ■申し込み: 10月30日(土) 締め切り

※水路には大人の膝ぐらいの深さまで水があります。胴長、特長などの装備でご参加いただき、足元には十分お気をつけ下さい
※申し込み・お問い合わせは新渡戸記念館へ(TEL・FAX0176-23-4430)

▶館長・館長代理講演会

6月11日(金)第42回東北地区救護施設研究協議大会(古牧温泉・青森屋)館長講演(演題:三本木原開拓にみる福祉事業) / 7月31日(土)十和田ロータリークラブ第45回インターアクト年次大会・館長講演(演題:三本木原開拓と新渡戸三代) / 9月10日(金)あおもり健考会第18回例会・館長代理講演(演題:音楽と健康・生誕200年記念・ショパンの食にまつわるエピソード)

▶音楽学博士・音楽評論家として館長代理が活躍

新渡戸常憲館長代理が、『音楽現代』2010年8月号の演奏会評論、9月号のショパン特集、10月号のクララ・ハスキル特別企画に執筆し、9月9日、16日、23日付デーリー東北新聞には「不朽の旋律〜ショパン生誕200年に寄せて」と題し全3回で寄稿しました。

▶平成22年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

6月17日(木)10:30から平成22年度第1回太素顕彰会定期総会を十和田商工会議所2F会議室で開催し、平成21年度事業報告及び収支決算報告について審議が行われ、原案通り可決されました。

▶学芸員による三本木原開拓の基礎知識出前講座を実施

8月6日(金)十和田市倫理法人会・第524回 経営者モーニングセミナー(十和田富士屋ホテル) 講座名:三本木原開拓の知っているようで知らない話 / 9月3日(金) 17日(金)十和田市立南小学校 講座名:①クイズでまなぼう!三本木原開拓Q&A ②行ってみよう!新渡戸記念館・みどころ紹介(全2回)

▶㈱まちづくり十和田主催・稲生町タイムトラベルへ歴史監修ならびに資料提供協力

中心市街地の活性化を目的とする歴史・アートのまちなかイベント「稲生町タイムトラベル」[主催:㈱まちづくり十和田/主管:アートチャンネルトワダ実行委員会/期間:7月25日(日)~8月28日(土)]へ当館が歴史監修ならびに資料提供で協力しました。

編集後記

今年の夏くらい苦しさを伴った季節を味わったことは無かった。今までの記念館はどんなに暑い日でも館内は涼しく、天井のファンがゆっくり回転するだけで気持ちよかったが、今年は違った。いよいよ北国の避暑地としても名高い十和田にも亜熱帯化の波が押し寄せて来たのである。そしてようやく秋の気配。日々急速に気温は低下する。夏鳥たちは大陸に無事に渡っただろうか?鳥好きの私の余計な心配だ。さて、暑い夏は過ぎた。米は豊穡であり嬉しいかぎりであるが、喜びとは裏腹に価格の下落が懸念される。秋まつりのお神輿様には収穫のお礼と、何よりもご先祖様に町の発展と自身の健康を願った。(館長代理 新渡戸常憲)



キゴシタイヨウチョウ

ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00~午後4:00
 - ・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29~1/3)
 - ・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
 - ・小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して

十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2010年10月1日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax : 0176-23-4430
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷